

事後評価報告書(国際緊急共同研究・調査支援プログラム(J-RAPID))

1. 研究・調査課題名:「2011年東北地方太平洋沖地震における地盤災害の日米合同研究・調査」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者: 東京工業大学 大学院理工学研究科 教授 時松 孝次

2-2. アメリカ側研究代表者: カリフォルニア大学デービス校土木環境工学科 教授
Ross, W.Boulanger

3. 総合評価: 研究・調査の目標及び実施環境にてらして、相応な成果が得られている

4. 事後評価結果

(1)研究・調査成果の評価について

本研究は以下の点で評価できる。1)日米連携が円滑に進行している。特に米側の積極性は高く評価できる。2)包括的、系統的かつ速やかな現地調査の遂行により、今後につながる有益なデータが取得できている。3)現地調査結果に基づいて、液状化で被害を受けた戸建て住宅の修復方法に対するガイドラインを整備したり、新たな対策工方法を提案するなど、具体的かつ実効性のある提案を行っている。

(2)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

本研究は以下の点で評価できる。1)現地調査において日米連携がうまく機能している。2)主要な研究成果の公表は今後なされる予定であるが、現段階では活発に情報発信されていると判断できる。

一方、予算規模も比較的大きく、かつ、多くの参加者のある研究であるが、研究成果の発表を見ると、参加者の多くは名前が出てこず、また、大規模な研究チームを形成していることのメリットなどが報告書からは読み取れない。

(3)総合評価コメント

東日本大震災において多くの地域で発生した地盤災害に正面から取り組んだ研究である。日米の多くの研究者が連携して被災後の早い段階での現地調査を実施しており、今後につながる重要なデータの取得が蓄積できたことは評価できる。